



風

琉球大学資料館

文
川島由次

KAWASHIMA, Yoshitsugu

琉球大学資料館(風樹館)館長。農学部生産環境学専攻教授。

主な著作「獣医組織学 新版」(共訳、1994)、「琉球の風水土」

(共著、1984)ほか。

樹

館

■はじめに

近年、文部科学省は旧帝大を重点として大学博物館の設立を促進しつつあり、今日までに「東京大学総合博物館」「北海道大学総合博物館」の整備が完了しております。その他、東北大学、名古屋大学、大阪大学、九州大学、鹿児島大学においては、校舎の一部または旧図書館などを転用して「仮展示室」とし、特色ある標本類を展示していますが、独立した博物館の建設は計画中というところ です。このような中で、本学の資料館は地方大学としてはきわめて“まれ”で独特な施設であり、九州地区では唯一のもので す。(次ページへ)

目次

琉球大学資料館『風樹館』(川島由次).....	1	宮良長包の楽譜、新たに確認.....	9
熱帯生物圏研究センター西表実験所(新本光孝).....	6	高校生の図書館就業体験ほか.....	10
冊封史周煌の七言律詩掛板収蔵(赤嶺守).....	8	蔵書検索 WebOPAC に新機能ほか.....	11
沖縄関係新収蔵資料.....	9	お知らせ.....	12

風樹館

—— 琉球大学資料館

(◁表紙より) 最近ようやくにして各大学でも、学内にその大学の特色を反映した博物館や資料館を整備しようという気運が生じてきました。それぞれの地域に見られる動植物標本の保存や、退職教官の収集した貴重な標本類の保管とその活用、さらには学芸員養成や小中高校生の学習の場として、これから益々大学博物館の重要性は増大するものと考えております。

幸いにも、森田孟進学長には大学博物館への高い関心と理解をお持ちいただいております。近年、急速に整備が進展しているところであります。特に、重点化経費で琉球大学附属図書館と連携して実施した資料館 Web サイト及び標本データベース作成事業では、学外の方たちにも当館の存在を広く認知してもらえるようになっただけでなく、インターネットを通じた収蔵標本の検索とその関連情報の取得が可能となり、研究や総合学習などでより有効に標本や資料を活用していただけるようになりました。資料館では、今後も、同じ学内における学術情報の蓄積と発信の場として、図書館との連携は重要であると認識しており、収蔵資料に関するデジタル情報の共有化など、「地域に開かれた博物館」に向けて様々な取り組みを進めていきたいと考えております。

本稿を学内への資料館の広報の一環としたいと思っておりますが、在学生、特に県外出身の新生生にはぜひ一度本館を訪れて、沖縄の自然や文化についての理解を深めていただきたいと思います。また、学外的な広報としては、パレットくもじの催事場の一角で“特別展”を開催して、琉球大学の全体像と資料館を広く県民に知ってもらう計画も考えています。このほか、館内にあるゼミ室では、学内学生をはじめ、近隣学校の生徒や教職員を対象とした講演会や、標本作製教室などもご要望に応じて随時実施しておりますので、お気軽にご相談下さい。

沿革

○昭和 42 年 (1967) 3 月

金城キク商会 (金城報恩会) より琉球大学農学部へ 2 万ドルが寄贈され、旧首里キャンパス内に古農機具・昆虫や動物標本などを収容した農業博物館 (風樹館) が建設されました。農学部内に「風樹館運営委員会」が設置され、高良鉄夫農学部長が初代委員長となりました。

○昭和 58 年 (1983) 5 月

本学の千原キャンパスへの移転に伴い、新たに学内共同利用施設として「標本資料館設置のための検討委員会」が組織されました。また、文部省より関係教官へ、標本の種類・点数などの調査の依頼がありました。

○昭和 60 年 (1985) 3 月

琉球大学資料館 (風樹館) が竣工しました。そして 4 月に各学部より選出された教官によって「資料館運営委員会」が設置され、また「琉球大学資料館規則」が制定され、館名は従来の「風樹館」を継承することになりました。資料館の事務は、当分の間、農学部事務部が行うこととなりました。9 月に旧風樹館及び各学部からの資料・標本等の移転が完了し開館の運びとなり、初代館長には農学部の東清二教授 (昆虫学専攻) が選出されました。

○平成 3 年 (1991) 4 月

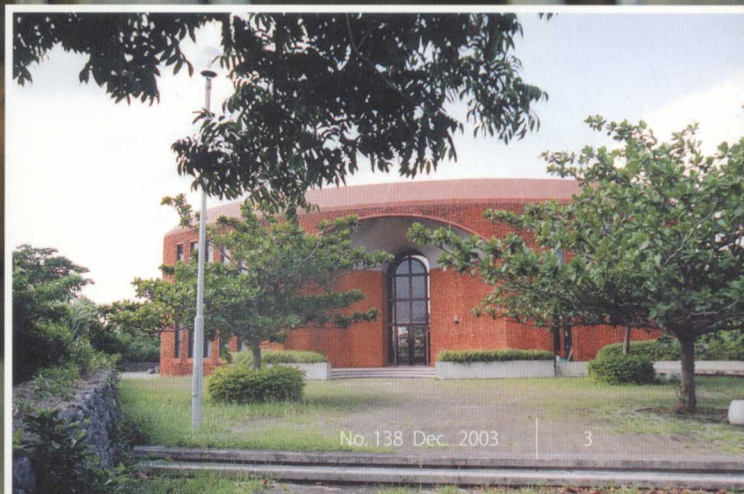
技官 1 名が配置され、翌年 10 月に自動ビデオ鑑賞装置が設置されました。

○平成 7 年 (1995) 12 月

理学部所蔵のサンゴと貝類標本・海底地殻コア標本が収蔵されました。

○平成 11 年 (1999) 4 月

標本類のデータベース化に着手。Web サイトにて公開。





■考古・地理資料室

旧首里キャンパス内で採集された首里城関連の陶片や瓦などの遺物約 2,100 点が収蔵されています。この中には、首里城正殿前にあった大龍柱（阿形）の頭部破片や瑞泉門の近くに設置されていた日時計の破片、また冊封使によって首里城内に建立された龍樋碑文の一部など、首里城復元にも利用された貴重な資料も含まれています。また、地理資料としては、琉球列島の主要な島々の地形模型を展示しています。

■地学資料室

旧海洋学部の先生方が琉球列島の各地域で採集された岩石・土壌標本や南極大陸の岩石標本約 2,000 点が展示されています。これらの岩石標本類については、Web サイトで「奄美・沖縄岩石／鉱物図鑑」として公開しています。

■民俗資料室

琉球王府時代から戦前まで使用されていた鋤・千歯・臼・石製のサトウキビ搾機などの古農具類の他に、県内に 3 隻しか残されていない丸木船（サバニ）や、藁算の復元資料など約 120 点の資料が見られます。

各資料室の概要

風樹館の Web サイト：<http://fujukan.lib.u-ryukyuu.ac.jp/>

資料館の建物は、奥武山陸上競技場や那覇市民会館、海洋博の沖縄館などを設計した、故金城信吉氏という県内の有名な建築家の最後の設計によるものです。建物には、沖縄の城跡や民家の石垣、墳墓などの石造建築に見られる石積み的美しい曲線をイメージした煉瓦造りの外観や、“ひんぷん”と呼ばれる民家の屋敷入口の目隠しをエントランスホール入口に設置するなど、琉球建築特有の様式が随所に取り込まれています。

■中央展示ホール
(前ページ見開き)

ホール中央には、首里城跡ハンタン山のアカギ、県内リュウキュウマツの最巨木であった名護市大浦のハイシ松、推定樹齢約 460 年の屋久杉等の樹木円板標本が配置され、そして両側の壁面には、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナ等の写真パネルが掲げられています。

■美術工芸資料室

旧首里キャンパスにあった陶芸研究所の資料約 800 点を展示しています。この中には、人間国宝に指定された金城次郎氏や浜田庄司氏のほか、バーナード・リーチ氏などの著名な陶芸作家の作品が含まれています。

▶漏刻門日時計方位版破片



▼ヨナグニサンの標本



樹 館

■昆虫・植物標本室

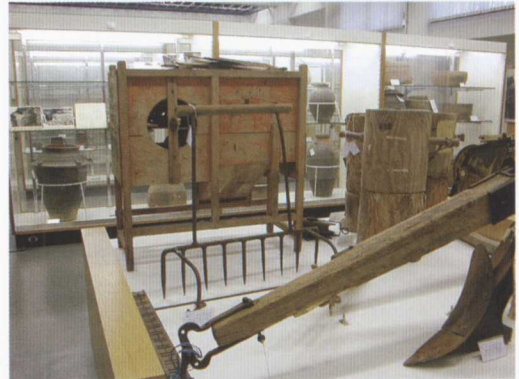
ヤンバルテナゴコガネ・コノハチョウ、世界最大のガであるヨナグニサン（いずれも天然記念物）などの琉球列島に生息する昆虫類の標本約 10,000 点が収蔵されているほか、琉球列島産さび病菌標本約 4,000 点、木材腐朽菌を中心とした沖縄島キノコ類の標本約 100 点、植物さく葉標本約 1,600 点、種実標本約 700 点を展示しています。

■動物標本室

琉球列島に生息する哺乳類、鳥類、両生爬虫類、サンゴなどの標本類約 2,000 点が収蔵されています。これらの中には、ヤンバルテナゴコガネ、ジュゴンやヤンバルクイナ、イリオモテヤマメコ、ケナガネズミ、キクザトサワヘビなどの天然記念物や国内希少野生動植物種に指定されている学術的にも貴重な標本が多数含まれています。また、2003 年より展示された新しい標本として、「骨格と剥製標本のそろったもの」としては、カラスバト、アマミヤマシギ、オリオオコウモリ、ワタセジネズミなどがあります。「骨格標本と毛皮標本」としてはイリオモテヤマメコがあります。また「剥製標本のみ」としては、サシバ、ズアカアオバト、カワセミ、アカショウビンが展示されています。

■展示ホール

自動ビデオ鑑賞装置が設置されており、琉球列島の自然に関するビデオ約 20 本が自由に鑑賞できます。また、壁面には沖縄島に生息する希少動物の生態写真が展示されています。



ヤンバルクイナの剥製



▲上から 動物標本室、民俗資料室、展示ホール

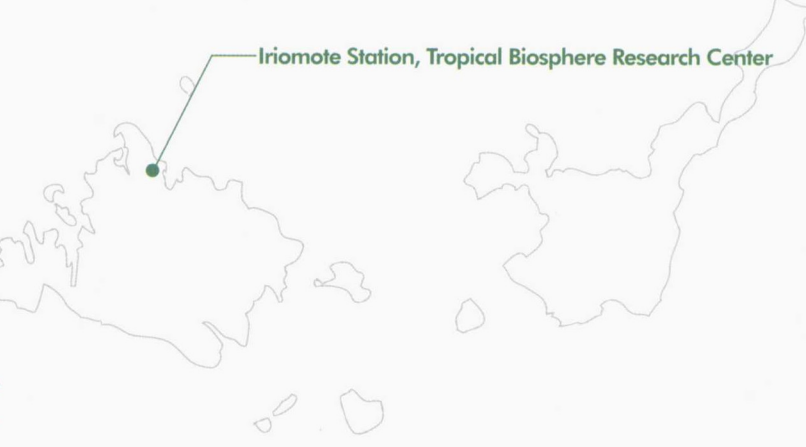


■これからの課題

千原キャンパスで資料館が竣工してから 20 年目を迎えましたが、雨漏りや空調機器の故障などの施設の老朽化に加え、専任は技官が 1 名のみという人員不足の問題など、解決すべき様々な課題を抱えています。標本数などの規模の違いもありますが、名古屋大学では専任教官 6 名、事務官 3 名、技官 1 名の計 10 名の体制です。また、当館は展示スペースのほかに収蔵庫（バックヤード）を持たないため、各展示室は倉庫も兼ねているのが現状であり、今後の資料の増大にともなう収蔵スペースの確保も大きな課題となっております。このような中、資料館は現在、博物館相当施設となるべく努力中ですが、これらの課題を一つずつ解決して、資料館充実のため前進したいと考えております。

熱帯生物圏 研究センター

西表 実験所



Iriomote Station, Tropical Biosphere Research Center

附属図書館より、「びぶりお」に特集として熱帯生物圏研究センター西表実験所について、資料や活動状況を紹介して欲しいとの依頼を受けた。常々、西表実験所について、何らかの形で少しでも紹介したいと心ひそかに思っていた。まさにチャンス到来である。しかし「西表文献データベース」については、2002年度より総合地球環境学研究所「西表プロジェクトチーム」によってその取り組みが進められており、一部はすでに公開されている*。そのため、ここでは研究活動、教育・実習に絞って概要を紹介し、最後に将来構想を提示して今回の責めを果たしたい。

text: 新本光孝 ARAMOTO, Mitsunori

琉球大学熱帯生物圏研究センター長。主な論文『亜熱帯沖縄における天然材の資源植物学的研究』（日本林学会学術講演集，2001）ほか。

森林調査（実習）風景。枠内は西表実験所全景。



I. 熱帯生物圏研究センターの設置目的

琉球大学熱帯生物圏研究センターは、平成6年6月に、サンゴ礁、マングローブ林および熱帯・亜熱帯林の生態とそこに生息する生物と環境の研究を、現場・フィールドで実際に行うことのできるわが国唯一の研究施設・全国共同利用施設として設置された。また、この研究分野に従事する全国の研究者の共同利用に供することを目的としている。

本センターは、西原研究室、瀬底実験所、西表実験所の3つの施設によって構成されている。

II. 西表実験所の概要

1. 研究活動の概要・利用の状況

西表実験所では、亜熱帯のさまざまな生物資源を、食料資源、薬料、香料、園芸等へ利用するための開発研究に取り組んでいる。具体的には、西表島の自然的・地理的特性を最大限に活かして、主として熱帯・亜熱帯有用植物の導入・栽培、琉球列島の昆虫相、森林資源の有効利用、マングローブ林の造成・管理、沿岸水域の生物資源に関する特化型の研究を総合的に行っている。

本実験所の利用状況は、学内の共通教育等科目の亜熱帯—西表の自然、学外の九州・四国地区の農水系学部を対象とした単位互換制度による熱帯農学総合実習、大学院農学研究科（鹿児島大学連合大学院）講義、国際農林業協力協会及び国際協力事業団などの教育・実習・研究を行い、多くの外来研究者による研究等に幅広く活用されており、年間延べ2,800名を超えている。

2. 実習・教育（集中講義）の実施内容及び参加学生の感想

亜熱帯の西表島での実習と講義という非常にユニークな体験

は、学生たちに感動を与え、大きな反響を呼んでいる。ここに、「熱帯農学総合実習」と「亜熱帯—西表の自然」についての内容を説明し、参加学生の感想文の中で最も印象に残った一文を紹介しよう。

1) 熱帯農学総合実習（農共311）

昭和57年夏から単位互換制度に基づく「熱帯農学総合実習」は、今年で第21回目を迎えた。参加大学は、高知、九州、長崎、佐賀、宮崎、琉球の各大学である。本実習は、午前には熱帯の昆虫、作物、牧草、土壌、森林、園芸、資源植物、マングローブと広い分野の講義を行い、午後には牧場、パイナップル、サトウキビのほ場見学、浦内川流域の森林調査、マングローブ林および沿岸水域調査等の現地調査を実施し、文字どおり熱帯農学を肌で感ずるものである。

◆感想文：「この実習を受ける機会を与えられたことに、心から感謝する。全国の熱帯農学を志す学生に、一度は体験させてあげたいと感じた。我々少数の者が経験するには、熱帯農学総合実習は、あまりにももったいない。」

2) 共通教育等科目 亜熱帯—西表の自然（自82）

西表島には、日本では数少ない亜熱帯林が広い面積で存在し、陸域に貴重な動植物が多数生息している。また、島を取り囲むマングローブ林内、沿岸水域には、やはり多数の熱帯・亜熱帯海産生物が生息している。これら陸域・水域・沿岸の生物は独特な方法で生命を育てている。本科目の授業も午前には西表島の自然と環境、森林・植物相、マングローブ林、イリオモテヤマネコの生態、昆虫の講義を行い、午後には昆虫・植物の同定調査と標本作製、マングローブ林・浦内川森林調査、水域・沿岸生物調査を実施し、西表島の自然を直に肌で触れるものである。

◆感想文：「終わってみれば5泊6日なんてあっという間だった。でも、その間とてもいろいろなことを経験できた。普段の授



業とは違った自然を直接相手とする講義で、とても良かったと思う。毎日が驚きの連続で、自然の面白さにワクワクした。人間関係の輪が広がったことも良いことだ。とにかく、この集中講義で得たものは大きかった。普段の生活に戻っても、今回学んだことを生かしていこうと思う。そして、西表島での貴重な体験はきっと忘れないだろう。」

おわりに

将来構想としては、西表実験所の用地全体の利用区分を行い、自然実験園として整備する。すなわち、従来のほ場の活用に加えて、亜熱帯林とマングローブ林の園内に長期試験区を設定し、モニタリング・継続調査を行い、森林の動態・維持機構を解明する。自然実験園内には、遊歩道、木道を整備し、一般自然観察と研究の両目的に活用する。また、動植物の目録と自然実験園を活用した教育プログラムを実践する。マングローブ植物区では、耐塩性機構を栽培実験等から明らかにする。

おわりに、西表実験所における研究の将来展望を提示し、読者各位のご支援、ご協力を切にお願いしたい。



※ <http://chikyu-iriomote.cc.u-ryukyu.ac.jp/>

天王寺旧蔵冊封使周煌の
七言律詩掛板収蔵

情報ラウンジに展示しています

沖縄関係資料収集委員会では、平成14年度の特別経費で、旧天王寺が収蔵していた冊封使周煌の七言律詩掛板を収集しました。

掛板には「梵宮高く構えて金仙安らかに、城闕朝籠る万樹の煙、豔説す王家の香火院、臆誇る帝釋浄光天、青く垂る椰実漿酪を凝らし、紅き擘の蕉瓢色蓮を奪う、敢えて謂んや賢勞遙かに海を渡ると、幾回か花底に珊瑚を拂う」といった七言八句の律詩が詠まれています。詩には「お寺は高く堂々たる作りで、仏像が安坐しており、お城の門は朝もやにけぶり周囲の樹木もかすんでいる。王家の菩提寺として大切にされていることはうらやましいかぎりであり、境内には帝釈天のきよらかな光があふれている。椰子の実が青く垂れその汁は酪を凝らしたように美味しく、熟れた芭蕉の実は親指のように太く、色は蓮よりも美しい。どうして遠く海を渡って苦労していると言うことがあろうか。幾度も美しい花の咲きにおう所で、珊瑚のように美しい鞭で、散った花びらを払っているのだから」（読み下し・訳詩、上里賢一）といった意味が込められています。

作者の周煌は、1756（乾隆21）年に尚穆王の冊封副使として正使の全魁とともに来琉していますが、この七言律詩は、那覇市首里にあった名刹・三大寺の一つに数えられていた天王寺のために詠んだもので、天王寺は明治期に廃寺となっており、遺品がほとんど損傷なく残っているのはめずらしいです。周煌は、四川省の涪州の人で、字は景垣、号は海山といます。帰国後は、兵部侍郎、工部尚書、兵部尚書と出世し、中国国内では有名な四庫全書を編集した四庫全書館の総裁として知られています。詩、書に優れ、那覇の天使館に滞在中、その得意とする詩や書を多く残しました。

この冊封使周煌の七言律詩掛板は、図書館本館2階情報ラウンジに展示されています。

（沖縄研究資料調査収集専門委員会委員長 赤嶺守）



2002年度
沖縄関係新収蔵資料

新たに4点収集しました

沖縄研究調査収集専門委員会による平成14年度収集資料は以下の通りです。

1. 明治期沖縄県関係辞令ほか

那覇尋常高等学校校長を勤めた隣谷義一氏の明治30年代の辞令書、感謝状等50点。近代の沖縄県政、特に人事行政を知る上で、文書学的にも貴重な公文書。

2. 鳥賞案子

薩摩藩の鳥方であった比野勘六が、琉球中山府普天間親雲上より聞き取り、著した資料。1852年(嘉永5)写。琉球王府時代の鳥類の飼い方、病気の治療法、種の分類などを記した、彩色図入りの稀覯書。表紙には「飼方餌付方唐紅毛渡鳥和鳥集」とある。

3. 冊封使周煌七言律詩掛板(天王寺旧蔵)

1756年(乾隆21)、冊封使周煌が首里天王寺に寄進

した書跡資料(前頁参照)。

4. 琉球記事

明治10年代の民情調査報告書(写本)。当時の沖縄の地理、風土、医療衛生などについて記されている。

▼鳥賞案子



宮良長包の楽譜、新たに確認

附属図書館が所蔵する沖縄関係資料の中に、沖縄学の先駆者伊波普猷(1876~1947)の旧蔵資料161冊を収集した伊波普猷文庫があります。その中の『宮古八重山の歌』に、「えんどうの花」など沖縄県民に広く愛唱されている作曲家宮良長包(1888~1939)の直筆とされる楽譜が確認されました。「鷺乃鳥節」と「でんさ節」の2曲で、5線譜に音符が丁寧に書かれており、音符の下には、朱筆で工工四も付けられています。1912年頃に書かれたものと思われ、現存する長包直筆の楽譜の中では最も古いものと思われます。石垣市教育委員会大田静夫氏が「宮良長包音楽祭」に向けての資料収集の際に見つけられたもので、2003年4月25日付「八重山毎日新聞」でも紹介されました。

伊波普猷文庫は電子化されており、図書館Webサイトより、高精細画像をご覧になることができます

(<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/iha/>)。

今回確認された楽譜は、目録番号No.59「宮古八重山の歌」pp.75-77に掲載されています。



高校生の図書館 就業体験

8月18～19日の2日間、就業体験の高校生5名（県立普天間高校2年生女子4名・男子1名）を受入れ、図書館業務を体験してもらいました。

内容は、(1)カウンター業務、(2)資料整理業務、(3)図書・雑誌の受入業務、などでした。さすがに最初は緊張した様子でしたが、理解も早く誠実な態度で実習に取り組んでいました。最後の図書館職員との懇談会では「緊張した」「楽しかった」「今回の経験を自分の将来に生かしたい」等の意見がありました。たった2日間ではありましたが、大学図書館の業務を肌で感じることができた様子でした。また彼らのフレッシュな感覚は、我々図書館職員にも初心を思い出させるような新鮮な印象を与えてくれました。

近年、小中高生の体験学習としての図書館見学が増加

し、図書館側が館内案内をする機会も増えています。附属図書館では、普段学校ではできないこのような体験学習に協力することで、図書館の地域への開放、地域貢献を今後も推進していきたいと思えます。



第51回九州地区医学 図書館協議会総会

琉球大学附属図書館を当番館として開催

附属図書館医学部分館が当番館となり、10月30日、九州地区の医療系大学図書館で構成する九州地区医学図書館協議会（加盟館18館）の第51回総会を那覇自治会館開催いたしました。

今回の総会には、14大学、22名の参加があり、提出された議事に基づき、各大学が自館の実情を報告しながら、活発な討議を深めました。この総会において、沖縄県立看護大学の新規加盟が承認されるとともに、日本医学図書館協会九州地区次期評議館に九州大学が選出されました。

協議題、報告事項は下記のとおりです。

〈協議題〉

1. 外国雑誌の購読契約について（提出館：福岡大学）
2. 電子ジャーナルや外部データベース等電子資料の経理処理について（提出館：福岡大学）
3. EBM 関連データベースの導入について（提出館：鹿児島大学）
4. インターネットを利用した医学情報サービスについて（提出館：琉球大学）
5. 今後のILL文献複写等サービスについて（提出館：

琉球大学)

〈報告事項〉

1. 第74回日本医学図書館協会総会について（報告館：九州歯科大学）
2. 第10回医学図書館基礎研修会（8月27～29日）について（報告館：九州歯科大学）

最後に、来年の総会は九州歯科大学が、九州地区医学図書館員セミナーは大分大学が、それぞれ当番館となり、とり行うことが確認されました。



蔵書検索 Web OPAC に新機能

マップ表示機能と携帯電話版 OPAC

OPAC で蔵書検索を行った際に、資料の所在場所をフロアマップで表示する機能が追加されました。所蔵情報にある所在場所の名称（例：閲覧室図書、雑誌書庫）をクリックすると、簡単な説明文も併記された資料の所在の地図が表示されます。

また、携帯電話からも Web 経由の蔵書検索が可能になりました (<http://opac.lib.u-ryukyu.ac.jp/nbp/>)。蔵書検索のほか、開館カレンダー、貸出状況、新着資料の確認を行うこともできます。

より便利で身近になった蔵書検索 WebOPAC を是非

一度お確かめください。



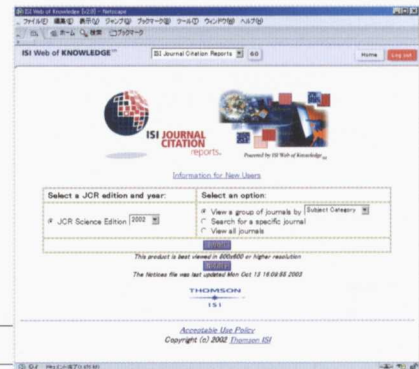
DB 検索システムに「JCR」追加

インパクトファクターを調べられます

「Journal Citation Reports (JCR)」が、2002年7月よりオンラインで利用できるようになりました。「JCR」は、学術雑誌の評価を図るための指標であるインパクトファクター等を収録しているデータベースで、例えばある特定分野で発行されている複数の学術雑誌が、それぞれどのくらい影響力を持っているかを、各雑誌に掲載された論文の被引用回数などをもとに算出し、相対的に比較することができます。インパクトファクターが高い学術雑誌ほど、その専門分野内で影響力が大きいといえます。

また、「Web of Science (WoS)」と連動していますので、WoSの検索結果からJCRへのリンクボタンをクリックするだけで、その雑誌のインパクトファクターを簡単

に確認することができます。5年間の経年変化もグラフで表示され、分かりやすい画面になっています。図書館 Web サイト「雑誌論文・記事」のページからご利用ください。



グローバル ILL に参加

北米図書館の資料が入手可能になりました

国立情報学研究所 (NII) と OCLC (Online Computer Library Center) との ILL システム間のリンクが運用開始され、琉球大学附属図書館でも4月10日より参加しました。これにより、北米のグローバル ILL 参加館 (現在 34 館) の所蔵資料の文献複写・相互貸借の利用が可能

になり、より広く研究資料を手に入れることができるようになりました。

お知らせ

開館カレンダー(2003年度)

●本館

12月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2004年1月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29						

3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●医分館

12月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2004年1月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29						

3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

開館時間：【黒】8:30～22:00 【緑】13:00～20:00(分館は13:00～18:00) 【青】8:30～17:00 【赤】休館

本館だより

<第242回附属図書館運営委員会録>

平成15年7月10日

○協議事項

1. 平成14年度附属図書館決算(案)について
2. 平成15年度附属図書館予算(案)について
3. 琉球大学における学術情報基盤の整備方策について(継続)

○報告事項

1. 中期目標・中期計画(案)について
2. シラバス指定図書収集について
3. 会議報告

<平成15年度第2回沖縄県大学図書館協議会講演会>

平成15年11月28日

講師：幸喜徳子氏(沖縄キリスト教短期大学非常勤講師・
沖縄石油ガス株式会社代表取締役専務)

演題：「翼に夢をのせて～女性パイロット、アメリカの空を駆ける～」

場所：本館1階多目的ホール

加盟館から約40名の参加者があり、約1時間半に渡った講演は盛況のうちに終了しました。

情報ラウンジ展示コーナーのご案内

2003年度貴重書展「史料が語る琉球」を、名護市立中央図書館にて行いました。公共図書館という場所柄、子供も多く、初めて見る古い史料に興味津々な様子が印象的でした。前々回の貴重書展「文献で見る沖縄の歴史と風土」の一部を本館2階情報ラウンジにて展示しておりますので、ぜひこちらもご覧下さい。



■編集後記

図書館は文字を中心とした資料を収集しています。今回は少し図書館の外を出て、標本・工芸品などの資料があつめられ琉球大学の博物館といえる「風樹館」と、豊かな自然がそのまま資料となっている「熱帯生物圏研究センター西表実験所」について特集いたしました。文字ではない「かたち」からは、どのような情報を読み取ることができるでしょうか。本にも、装幀、紙、蔵書印など本文の文字以外から読み取ることができる情報があり、図書館も「図書博物館」という見方をすることもできます。視点を変えて、図書館を眺めてみるのも面白いと思います。